

世界 LNG 動向#121 2026 年 1 月

橋本裕 *

はじめに

2025 年の世界の LNG 輸入量は、速報値ベースの概算で 4.2 - 4.3 億トンと、2024 年の約 4 億トンから増加した。日本の LNG 輸入量は 2023 年に 2009 年以来の低水準となった後、2024 年・2025 年も減少が続き、2025 年は 6498 万トンとなった。中国は 6843 万トンであった。前年比で、日本は 0.9% 減、中国は 10.7% 減となった。一方で、中国の 2025 年 12 月の月間輸入（848 万トン）および 2025 年第 4 四半期の輸入量（2104 万トン）はいずれも同国の過去最高を更新した。参考として、日本は 2015 年 1 月に 843 万トン、2018 年第 1 四半期に 2449 万トンを輸入した実績がある。また、2025 年の日本・中国・韓国・台湾の北東アジア 4 市場の合計輸入量は 2.04 億トンで、前年から 2.9% 減少した。

欧州連合（EU）と英国は、2025 年に合計 1.13 億トンの LNG を輸入したと推計され、前年比 24% 増となり、2023 年水準へ回帰した。米国はこの欧州市場ブロック向け LNG 輸出を前年比で 6 割拡大した。結果として、欧州ブロックの LNG 輸入総量の 6 割を米国供給が占める構図となった。一方、ロシア産 LNG の欧州ブロックシェアは 13% へ低下し、同地域向け輸出量は前年比 13% 減となった。

世界の LNG 輸出サイドでは、米国が 2025 年の LNG 供給全体の 4 分の 1 超を占めた。これに続くのがカタールと豪州であり、いずれも世界市場の約 2 割弱を占める水準だった。

ベトナムでは、160 万 kW の同国初の LNG でのガス火力発電設備が 1 月上旬に本格稼働開始した。タイの企業が新たな長期 LNG 購入契約を発表した。

米 Henry Hub 天然ガス先物契約 2026 年 2 月引き渡し分は、1 月 23 日の週、100 万 Btu当たり 5.275 米ドルで終了した。そこまでの 1 週間で 2.17 米ドル、70% 上昇した。1 週間として 20 年近く振りの大きな上昇幅であり、率としては過去最大の上昇となった。次の取引日の 1 月 26 日（月）は前週終値よりもさらに 30% 近く高い 6.800 米ドル、2 月分の取引最終日 28 日（水）は 7.460 米ドルで終了した。

欧州とアジアでも価格が上昇している。英国は、1 月 23 日（金）に NBP 曆月限先物（2026 年 2 月）が 1 サーム当たり 100 英ポンド超で終了した。欧州大陸では、オランダ TTF 曆月限先物（2026 年 2 月）が同日、1 MWh 当たり 40 ユーロ超で終了した。いずれも百万 Btu 換算で約 14 米ドルとなり、2 週間前の水準から 4 割程度上昇した。アジアでは、翌月渡しのアセスメントされたスポット LNG 価格が 23 日（金）に約 11 米ドルと、2 週間で 2 割程度上昇した。

* 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

【アジア太平洋】

北海道電力株式会社は、2026 年 1 月 30 日、苫小牧地域を起点とした新たなエネルギー サプライチェーン構想を明らかにした。 (1) ガス事業への本格的な参入 (2) 次期 LNG 電源設置と LNG やアンモニアを取り扱うために大型外航船の受入を見据えた基地整備 (3) 次世代エネルギーによるカーボンニュートラル化を検討するとしている。

大阪ガス株式会社は、2026 年 1 月 5 日、100% 子会社である姫路天然ガス発電株式会社が 2019 年 9 月から建設している姫路天然ガス発電所 1 号機 (62.26 万 kW) が完成し、2026 年 1 月 1 日に営業運転を開始したことを発表した。2 号機 (62.26 万 kW) は、2026 年 5 月に営業運転を開始する予定としている。

株式会社 JERA、Woodside Energy Trading Singapore 社は、2026 年 1 月 15 日、LNG SPA(売買契約) を締結したことを発表した。JERA は、2027 年度から 5 年間、冬季 (12 月から 2 月) に DES (仕向地渡し) 条件にて年間 3 カーゴ (20 万トン) の LNG を購入する。

大阪ガス株式会社は、2026 年 1 月 14 日、米国のゴミ埋立地由来のバイオガスから製造されたバイオメタンが泉北基地に到着したことを明らかにした。

四国電力株式会社は、2026 年 1 月 15 日、高松港に入港したクルーズ船「飛鳥 III」に対して、Truck to Ship 方式により、約 54 トンの LNG 燃料を供給 (LNG バンカリング) したことを発表した。

韓国の HD 現代重工業は、2026 年 1 月 6 日、證券取引機関への報告の中で、LNG 輸送船 4 隻建造の契約を締結したことを明らかにした。相手方は米州の海運企業、引き渡しも米州としている。契約期間は 2026 年 1 月 5 日から 2029 年 3 月 27 日としている。

韓国のハンファオーシャンは、2026 年 1 月 20 日、オセアニア本拠の海運会社より LNG 輸送船舶新造 2 隻を、2029 年 6 月 29 日までの引き渡し、総コスト 5.01 億米ドルにて受注したことを、證券市場規制機関への報告にて明らかにした。

韓国のサムスン重工業 (SHI) は、2026 年 1 月 28 日、LNG 輸送船舶 2 隻をバミューダ 船主向けに建造する契約を締結したことを発表した。有効期間は 2029 年 1 月 31 日までとされている。

韓国のサムスン重工業 (SHI) は、2026 年 1 月 26 日、Kogas (韓国ガス公社) を相手取り、LNG 輸送船舶における韓国固有の LNG コンテインメントシステムをめぐる法廷ケースで勝訴したことを明らかにした。

中国 NDRC(中华人民共和国国家发展和改革委员会) によると、中国の天然ガス消費量は 2025 年、4265.5 億 m³・前年比 0.1% 増、同年 12 月は 385.7 億 m³・前年同月比 1.9% 増であった。中国の 2025 年の天然ガス生産は、NBS (国家統計局) によると、前年比 6.2% 増の 2619 億 m³ だった。2025 年 12 月は 230 億 m³ を生産した。年間生産量、月間生産量とも過去最高となった。

中国の PipeChina (国家管网集团) は、2026 年 1 月 20 日、自国主要天然ガスパイプライン網の 1 日当たりのガス供給量が 10.67 億 m³ と過去最高となったことを明らかにした。事

前に自社管理在庫を 36 億 m³ 以上に増加し、LNG 受入基地 8 件の高水準運用を重視しているとしている。パイプライン網に接続された LNG 受入基地 19 件からの平均送出量は約 3 億 m³、接続されたガス貯蔵設備 17 件の送出容量は日量 2 億 m³ としている。

CIMC SOE (南通中集太平洋海洋工程有限公司) は、2025 年 12 月 30 日、Vitol International Shipping 向け 12,500 m³ LNG バンカー船舶の起工式を実施したことを発表した。

中国の NEA (国家能源局) は、2026 年 1 月 28 日、自国の発電容量が 2025 年 16.1% 増加して 3.89 TW に達した、と述べた。太陽光発電容量は 35.4% 増の 1.20 TW、風力発電容量は 22.9% 増の 0.64 TW となったとのこと。

Vitol は、2026 年 1 月 22 日、Brunei Energy Services & Trading (BEST) との LNG SPA (売買契約) 延長を発表した。本契約は 2022 年に締結され、2023 年に引き渡しが開始され、Vitol のアジア事業向けに 5 年間、年間 40 万トン程度を供給する。今般締結された延長で、BEST は 2028 年から 2031 年まで、最大年間 4 カーゴを Vitol に供給する。

ベトナム PV GAS LNG は、2026 年 1 月 6 日、年間 20 700 000 百万 BTU (6 カーゴ程度)、2027 年から 2031 年の 5 年間、DES (持ち届け Ex Ship) 条件で Thị Vải LNG 基地向け LNG 調達契約を SHELL EASTERN TRADING 社に決定したことを発表した。

ベトナム PetroVietnam Gas (PV Gas) は、2026 年 1 月 16 日、2 月 23 日 - 3 月 10 日分の DES カーゴ 1 隻の Thị Vải 基地向け、供給者には 2 日間の枠での申し込みを求める入札を発表した。入札手続きの申し込み期限はベトナム時間 1 月 20 日 0900 である。過去 1 週間で、2 月 23 - 28 日分で 1 月 15 日申し込み期限としていた DES カーゴ 1 隻の入札に続く 2 件目の入札である。

GE Vernova 社は、2026 年 1 月 5 日、ベトナムのホーチミン市南東 70 km、Đại Phước 市のオンケオ工業団地内の、PV Power (PetroVietnam Power 社) Nhơn Trạch 3&4 1.6 GW 発電設備の本格稼働開始を発表した。同発電設備は EPC (エンジニアリング・調達・建設) 企業としてサムスン C&T、Lilama により建設され、ベトナムでは初の HA (H クラス・空冷式)、初の LNG 焚きとなる。

ベトナム PetroVietnam Power 社 (PV Power) は、2026 年 1 月 7 日、Nhơn Trạch 3・4 発電設備が同国初の LNG ガス火力発電設備として同 5 日にコマーシャル稼働開始したことを発表した。同発電設備には、PV Power が投資し、Lilama - Samsung C&T が EPC 請負会社で、総容量は 1.6 GW を超える。ホーチミン市の南東 70 km、Đại Phước 村 Ông Kèo 工業パーク内に立地する。電力開発計画 VIII 修正版によると、LNG はフレキシブルな発電構造において重要な役割を継続し、2030 年までに 22 GW 容量が見込まれる。国内電力システムの 9.5% - 12.3% を占めることとなる。

ベトナム Vietnam Electricity Group (EVN) は、2026 年 1 月 16 日、Quảng Trạch II LNG 火力発電設備プロジェクトについて、4 国有銀行との融資契約を締結したことを発表した。Vietnam Foreign Trade Commercial Bank (Vietcombank)、Vietnam Industrial and

Commercial Bank (VietinBank)、 Vietnam Investment and Development Bank (BIDV)、 Vietnam Agricultural and Rural Development Bank (Agribank)、 Vietcombank が幹事銀行となる。Quảng Trạch II LNG 火力発電設備プロジェクトは、2 基容量 1,500 MW、クアンチ省 Phú Trạch 村 Hòn La 経済ゾーンに建設される。同プロジェクトには EVN が出資、20%が直接出資、80%が融資調達となる。同プロジェクトは 2 つの要素に分かれ、その 1 は発電設備、2 は LNG 貯蔵・港湾となる。同プロジェクトは 2028 - 2029 年にコマーシャル稼働開始、2030 年までに完成見込み。

ベトナム PetroVietnam Power 社 (PV Power) は、2026 年 1 月 3 日、ハティン省人民委員会が自省 Kỳ Anh 町 Vũng Áng 経済ゾーンに Vũng Áng III LNG 火力発電設備プロジェクトへの投資に関して検討・承認を求める文書を自国政府に提出したことを明らかにした。同省人民委員会からの詳細によると Vũng Áng 経済ゾーンは、LNG ガス貯蔵、Vũng Áng III ガス火力発電プロジェクトの両方を持つこととなる。Vũng Áng III LNG 発電プロジェクトは、2021 - 2030 年期間・2050 年を見据えた国家電力計画 (発電計画 VIII) により、遅延ないし実現していない LNG 発電プロジェクトのバックアップとなる。Vietnam Gas Corporation JSC (PV Gas) は、Vũng Áng における容量年間 100 - 300 万トンの LNG 基地投資を検討していることを示唆している。同発電プロジェクトの投資額は 60 兆ベトナムドン、容量規模は 2030 年までに 1,500 MW、以降 4,500 MW としている。

Wärtsilä 社は、2026 年 1 月 15 日、株式会社商船三井 (MOL) 傘下シンガポール拠点の船舶管理会社 MOL Global Ship Management と 10 年間のライフサイクル契約を締結したことを発表した。12 隻の LNG 輸送船舶に関して、エンジンの停止期間を短縮し、メンテナンス上のフレキシビリティを向上する運航上の支援を提供するものである。

タイ Gulf Development 社は、2026 年 1 月 13 日、自社グループの発電設備への供給のために輸入すべく、自社子会社が 2028 年 1 月から 15 年間、年間 80 万トンの LNG SPA (売買契約) を、Engie 社と締結したことを、自国証券取引所に報告した。

タイ PTT は、2026 年 1 月 28 日、Cheniere Energy との年間 100 万トン・15 年間の長期 LNG SPA (売買契約) に基づく最初のカーゴを受け入れた。

インド ONGC (Oil and Natural Gas Corporation) は、2026 年 1 月 28 日、TotalEnergies Gas & Power Ltd (TEGPL) と MSPA (包括売買契約) を締結した。

インド Petronet LNG 社は、2026 年 1 月 27 日、ONGC (Oil and Natural Gas Corporation Limited) との間で、Dahej 気化基地での 5 年間の包括気化契約 (MRA) を締結したことを発表した。

インド Petronet LNG 社 (PLL) は、2026 年 1 月 27 日、Mahanagar Gas 社 (MGL) と LNG カーゴを気化ガスで MGL に販売する包括契約を締結したことを発表した。有効期間は 1 年間で、延長条項を含んでいる。

株式会社商船三井は、2026 年 1 月 28 日、インド GAIL (India) 社との間で、LNG 輸送船舶 "GAIL BHUWAN" について、本船を保有する両社合弁会社と GAIL の間で長期傭船

契約を締結したことを発表した。

川崎汽船株式会社 (K Line) は、2026 年 1 月 28 日、インド GAIL (India) 社、およびインドでの事業パートナーである JM Baxi Group の 3 社間で、LNG 輸送船 1 隻を共同保有することに基本合意したことを発表した。本船は、現在サムスン重工 (SHI) で建造中、就航後は既に締結済の GAIL 向けの長期定期傭船に従事する予定である。

株式会社商船三井 (MOL) は、2026 年 1 月 28 日、インド ONGC (Oil and Natural Gas Corporation Limited) と合弁会社を 2 社設立し、同合弁会社 2 社と ONGC 社の間で新造液化エタン専用輸送船 (VLEC) 2 隻について、15 年の長期傭船契約を締結したことを発表した。本船は、エタンを燃料とする 2 元燃料焚き主機関を搭載した 10 万 m³ 型の VLEC で、韓国のサムスン重工 (SHI) にて建造予定である。2028 年末以降に竣工し、米国からインドへの液化エタン輸送に従事する予定としている。

豪 Santos 社は、2026 年 1 月 22 日、2025 年第 4 四半期報告を公表した。これによると、Moomba CCS フェーズ 1 は引き続き計画通りの操業を行っており、稼働開始以降 CO₂ 換算 150 万トン以上を安全かつ恒久的に貯蔵している。Moomba CCS は、クリーンエネルギー規制機関の高度な基準を満たし、第 4 四半期に 2024 年 9 月プロジェクト稼働開始から 2025 年 6 月までの期間を対象として 907,872 豪州カーボンクレジットユニットを受領した。

豪 Origin Energy は、2026 年 1 月 30 日、2026 年第 4 四半期の APLNG 事業の生産量は 169.0 ペタジュール (PJs) で安定していたと述べた。FY26 (2026 年 6 月までの年度) 生産は 645 - 680 PJs (1185 - 1250 万トン) と見込んでいる。

Wood Group 社 (John Wood Group PLC) は、2026 年 1 月 20 日、Woodside との間で、西オーストラリア North West Shelf (NWS) プロジェクト洋上資産のブラウンフィールド型 EPCM (エンジニアリング・調達・建設管理) 業務継続に関する最大 6500 万米ドル (1 億豪ドル) 相当の 2 年間の契約延長を確保したことを発表した。Wood は、North Rankin コンプレックス、Goodwyn A プラットフォーム、Okha FPSO 等の Woodside の NWS 洋上諸設備の生産量、信頼性、寿命の増幅に向け、資産の改造を行う。

豪 Woodside Energy は、2026 年 1 月 28 日、自社 2025 年第 4 四半期報告にて、North West Shelf (NWS) プロジェクトの四半期間の LNG 運転信頼性が 99.8% を達成したことを報告した。この間同社は Greater Western Flank フェーズ 4 (GWF-4) プロジェクト FID (最終投資決定) を実現した。GWF-4 は、海底生産井 5 本のタイバックとなり、2028 年稼働開始目標としている。Woodside は Waitsia ステージ 2 ガスの NWS 設備での処理を開始した。

豪 Woodside Energy は、2026 年のメンテナンス主要日程について、Pluto LNG Park 1 系列の 5 月 1 日頃から 6 月 2 日頃まで、Karratha Gas Plant 1 系列の 9 月 4 日頃から 10 月 3 日頃として記載している。

豪 Woodside Energy 社は、2026 年 1 月 13 日、Scarborough Energy プロジェクトが西オーストラリア州カラサ沖 375 km の Scarborough ガス田にて FPU (浮体生産設備) を受

け取ったことを発表した。重量 70,000 トンで中国から輸送された。

豪 Woodside Energy は、2026 年 1 月 28 日、自社 2025 年第 4 四半期報告にて、Scarborough ・ Pluto Train 2 プロジェクトが同四半期末時点で、Pluto Train 1 改造を除き、予算内で 94% 完成になっていることを報告した。Scarborough FPU(浮体生産設備) は中国を出発、年明けに豪州に到着した。Pluto から Pluto-KGP Interconnector パイプラインを通じてのガスフローを 2029 年まで延長する諸契約を最終化し、開発井 8 本の掘削は完了した。Pluto Train 2 現場の建設活動は継続し、ユーティリティシステムのコミッショニング活動が開始している。Pluto 国内ガス送出ラインへのつなぎ込みは完了している。Pluto Train 1 改造ヤードのモジュラー建造は継続している。土木、構造物、配管の作業は Pluto 現場で進展し、ガス計量スキッドの設置・始動は予定通り行われた。最初の LNG カーゴは 2026 年第 4 四半期の予定通り進んでいる。Pluto LNG Train 1 の大規模な停止点検作業が 2026 年第 2 四半期、5 週間で予定されている。

豪 Santos 社は、2026 年 1 月 22 日、2025 年第 4 四半期報告を公表した。これによると、Barossa LNG について、Darwin LNG 延命プロジェクト完成・LNG 液化系列・貯蔵タンクのクールダウン後、LNG 生産が開始された。2025 年第 4 四半期末を経て、最初の LNG カーゴは DES(持ち届け ex-ship) 条件で販売された。このカーゴは現在 Darwin LNG にて積み込み中で、日本の埠基地に引き渡し予定。BW Opal FPSO はスタートアップ・コミッショニング活動を継続しており、ガス搬出量は日量 4.5 億立方フィート (~0.450 bscf)、設備容量の 75%程度となっている。Barossa ガス田での 6 生産井掘削は完了し、試験を行っている。

豪 Santos は、2026 年 1 月 27 日、Barossa LNG 最初の LNG カーゴが輸送船舶 *Kool Blizzard* に積み込まれたことを発表した。このカーゴは 1 月 25 日、Darwin LNG 設備を出発した。日本の埠基地に DES(持ち届け ex-ship) 条件で引き渡し予定である。同日、株式会社 JERA は、子会社の JERA Australia Pty Ltd を通じて参画している、同プロジェクトが LNG の生産を開始し、第 1 船を出荷したことを明らかにした。

豪 Santos 社は、2026 年 1 月 22 日、豪州北部沖 Bonaparte 盆地 Petrel ガス田の 42.71%、Tern ガス田の 100%持分を非中核資産として Eni Australia への売却を完了したことを発表した。

[北米]

米国の製造業部門エネルギー消費企業団体 IECA は、2026 年 1 月 28 日、DOE(米エネルギー省) に、連邦天然ガス法 NGA の 1 条項に基づき、「スポット LNG 輸出の全停止」を要請した。「供給量が不十分な期間、家庭用、ユーティリティ企業、LNG 輸出者は天然ガスを得ているが、製造業企業は供給を削減されている」。IECA は天然ガスパイプライン容量の増強も求めた。

Corpus Christi ステージ 3 プロジェクト第 5 系列は、テキサス州環境品質管理機関

(TCEQ) 提出書類によると、2026 年 1 月 14 日にコミッショニング活動を開始した。

三菱商事株式会社は、2026 年 1 月 16 日、米国でシェールガスの権益を保有し、その開発・生産・販売等を手掛ける Aethon III LLC 社、Aethon United LP 社、関連する会社等の株式等の全持分を、Ontario Teachers' Pension Plan、RedBird Capital Partners、Aethon Energy Management 等より取得することに、合意したことを発表した。2026 年度第 1 四半期頃までに取得を完了予定としている。Aethon が保有するシェールガス権益は、主にテキサス州・ルイジアナ州に跨る Haynesville Shale 層に所在しており、直近 3 年平均にて日量 2.1 Bcf (LNG 換算年間 1500 万トン) の持分生産量を有しているとしている。

ExxonMobil は、2026 年 1 月 30 日、Golden Pass プロジェクトは 2025 年第 4 四半期に機械的には完成した、と述べた。最初の LNG を 2026 年 3 月初旬に期待している。

ExxonMobil は、2026 年 1 月 30 日、GHG 排出およびフレアリング原単位に関して、自社の 2030 年排出削減目標を達成している、と述べた。2025 年時点での 2016 年比、自社の GHG 原単位を 20% 以上、上流 GHG 原単位を 40% 以上、全社のフレアリング原単位を 60% 以上削減した。メタン原単位の 2030 年削減目標は 2026 年末までに達成見込みとしている。

Venture Global 社による SEC (米連邦証券取引委員会) 提出の 8-K によると、国際商工會議所 (ICC) 国際仲裁法廷が、2026 年 1 月 21 日、同社の間接子会社 Venture Global Calcasieu Pass 社 (VGCP) に、Repsol LNG Holding 社との Calcasieu プロジェクトからの長期 LNG SPA (売買契約) に基づく LNG 販売に関わる仲裁手続きについて、最終裁定を発行したことを通知した。この裁定によれば、VGCP は 2025 年 4 月 15 日付 COD (コマーシャル稼働開始日) 宣言において SPA に従った「合理的かつ節度あるオペレーター」として行動していると判断され、Repsol の主張を否定した。

Venture Global は、2026 年 1 月 27 日、CP2 LNG フェーズ 1 の FID (最終投資決定) から 6 ヶ月、第 1 の LNG 系列到着を発表した。

アブダビ XRG は、2026 年 1 月 26 日、Rio Grande LNG プロジェクトへの投資を、第 4・5 系列への追加 7.6% 取得により増加する、と述べた。

豪 Woodside Energy は、2026 年 1 月 28 日、自社 2025 年第 4 四半期報告にて、3 系列で構成する Louisiana LNG 基盤プロジェクト開発は同四半期末時点で 22% 完了となったと報告した。最初の LNG は 2029 年目標としている。第 1 系列は 28% 完了だった。この四半期間中に、鐵鋼構造が立ち上がり、地下配管が始まった。第 2 系列 18%、第 3 系列 13% 完了となり、コンクリート基礎固めが続いている。建設は、LNG タンク群、浚渫開始・杭打ち・荷役設備へ向けた海洋部掘削に集中した。Williams との間で、HoldCo における 10%、PipelineCo における 80%・オペレーター権の売却取引が完了した。この投資の一環として、Williams は生産数量の 10% の LNG 引き取り義務を受けた。同プロジェクトはガス供給源確保のため長期輸送容量を確保した。確保されたパイプライン輸送容量は、3 系列基盤プロジェクト分をカバーしている。同プロジェクトは DOE (米エネルギー省) から、非自由貿易協定諸国向け LNG 輸出承認における稼働開始期日の 2029 年 12 月 31 日までの延

長の承認を受けた。この承認では許可期間を 2053 年 12 月 31 日まで 3 年間延長した。ルイジアナ州工業免税制度による 5 年間の資産税免税を受けた。

Glenfarne 奎下 Texas LNG Brownsville 社、ドイツ RWE Supply & Trading 社は、2026 年 1 月 15 日、年間 100 万トンの LNG について 20 年間の SPA (売買契約) を締結したことを発表した。受け渡しは 2030 年稼働開始見込みで、RWE により欧州、世界の地点へとなる。Glenfarne は Texas LNG のこれまでに発表した HOAs (基本合意) の拘束力ある長期引き取り契約への転換が完了した、と述べた。

Delfin Midstream は、2026 年 1 月 12 日、サムスン重工業との 2025 年 10 月に発表していた発注書簡 (LOA) の期間延長合意を発表した。Delfin は Black & Veatch との間で、Siemens Energy との購入発注の執行に関する LOA も締結している。

Honeywell は、2026 年 1 月 6 日、Technip Energies との間で、ルイジアナ州での Commonwealth LNG が計画する輸出設備向けの統合型 LNG 前処理・液化ソリューション提供の契約を発表した。Honeywell のモジュラー技術が Commonwealth LNG のプロジェクト日程の加速、執行のシンプル化、建設リスク軽減を可能として生産性を高めるものとしている。Commonwealth LNG は Caturus の傘下にあり、Honeywell の単一混合型冷媒液化プロセス技術、モジュラー型コイル巻熱交換器 (CWHEs) 6 基を用い、年間 950 万トンの LNG を生産するとしている。Honeywell UOP SeparSIV® 前処理技術を、LNG 仕様を満たすために水分・重質炭化水素を除去するため用いるとしている。この技術は様々な原料ガス組成に対応でき、従来型除去プロセスに比して、ライフサイクルコストで最大 50% 削減できるとしている。

Argent LNG 社は、2026 年 1 月 12 日、ルイジアナ州ポートフォーションでの自社 LNG 輸出設備の FERC (米連邦エネルギー規制委員会)、DOE (米エネルギー省) 規制承認手続きの取り扱いを K&L Gates 法律事務所に依頼したことを発表した。Argent LNG プロジェクトは年間 2500 万トンのモジュラー型 LNG 輸出設備の計画である。

Coastal Bend LNG は、2026 年 1 月 12 日、テキサス州ガルフ地域で計画する天然ガス液化 (LNG) ・輸出設備の FEED (基本設計) に KBR 社、Técnicas Reunidas 社を選定したことを発表した。FID (最終投資決定) 後、KBR・Técnicas Reunidas は EPC (エンジニアリング・調達・建設) 段階に進む。KBR、Técnicas Reunidas は ConocoPhillips の Optimized Cascade® Process (OCP) を活用する設計による複数大規模系列の FEED 実施に協力する。

米テキサス州に本拠を置くエネルギー・インフラストラクチャ企業 Pilot LNG 社は、2026 年 1 月 13 日、Navergy Infrastructure Partners 社への名称変更を含むブランド変更を発表した。同社の Galveston LNG バンカー設備 (GLBP) プロジェクトは引き続き FID (最終投資決定) に向け進展しており、同社ポートフォリオ中、最初のプロジェクトとなる。

Glenfarne 子会社 Magnolia LNG は、2026 年 1 月 15 日、FERC (米連邦エネルギー規制委員会) に、プロジェクト建設完了・業務開始期限を 2031 年 4 月 15 日まで 5 年間の延長を認めることを申請した。

Babcock の LGE 部門は、2026 年 1 月 5 日、LNG 輸送船舶向けの ecoSMRT® LNG 再液化技術のパフォーマンス 12% 向上を発表した。モデル 22-01 以降の保証が、純メタンに基づく天然ガスボイルオフガス (NBOG) について 1 時間当たり 1.7 トンから 1.9 トン (tph) に増加したとしている。

Glenfarne Alaska LNG 社、および NOVAGOLD RESOURCES 社・ Paulson Advisers 社が所有する Donlin 金鉱の開発者 Donlin Gold 社が、2026 年 1 月 7 日、Alaska LNG Pipeline からの天然ガス供給、このガスの引き渡しおよび同鉱への電力供給のためのインフラストラクチャ開発のための非拘束の LOI (意向表明) を締結したことを発表した。両社は、最大日量 5000 万立方フィートの天然ガス販売契約の公式締結、アラスカ州南中部から同州南西部の Donlin Gold 金鉱までの 315 マイル (507 km) 長の天然ガスパイプライン・同金鉱に電力を供給する発電設備の開発・建設に関して協力するため検討することとなる。

Glenfarne 子会社でありアラスカ Alaska LNG プロジェクトの開発主体である Glenfarne Alaska LNG 社、世界最大級のコンテナ船舶所有者 Danaos 社は、2026 年 1 月 20 日、Alaska LNG 推進へのパートナーシップを発表した。Danaos は LNG 輸送船舶 6 隻以上の建造・運航を促進し、5000 万米ドルの開発資本的投資を行う。

Glenfarne 子会社で Alaska LNG プロジェクト主開発者である Glenfarne Alaska LNG 社は、2026 年 1 月 23 日、アラスカ州民への天然ガス供給を主眼とする Alaska LNG プロジェクトのフェーズ 1 を開発から初期実行段階へと進める一連の進展を発表した。フェーズ 1 は、739 マイル (1,189 km) 42 インチ径パイプラインが 4 区間で建設され、アラスカ州 North Slope の天然ガスを州内エネルギー需要対応のため輸送する。このフェーズには、63 マイル (101 km) 32 インチ径 Point Thomson 支線を含む可能性がある。Glenfarne は同パイプラインの機械的な完成を 2028 年、ガス輸送開始を 2029 年の目標としている。Glenfarne は Worley 社をフェーズ 1 の EPCM (エンジニアリング・調達・建設管理) 業務に仮指名している。これに先立ち Worley は 2025 年末、フェーズ 1 のエンジニアリング作業を FID (最終投資決定) に十分な段階まで完成した。Glenfarne は同パイプラインへのガス販売のため North Slope 生産者と複数の契約締結を発表した。Glenfarne は ExxonMobil との間で同パイプライン向けガス供給のため、前提条件付のガス販売契約を締結している。Glenfarne はまた Hilcorp Alaska 社とも追加供給のため前提条件付ガス販売契約を締結している。今回の発表は、発表済の Pantheon Resources 子会社 Great Bear Pantheon 社とのフェーズ 1 向け天然ガス供給の前提条件付契約に続くものとなる。Glenfarne は州内ガス顧客との合意も進めている。Glenfarne ENSTAR Natural Gas 社と 30 年間の天然ガス供給に関して非拘束の LOI (意思表明) を締結している。Glenfarne はまた、Donlin Gold Mine と、鉱山事業へのエネルギー供給のため、最大日量 5000 万立方フィートの引き渡し、315 マイル長天然ガスパイプライン・発電設備の建設を想定する LOI を発表した。

Worley は、2026 年 1 月 23 日、Glenfarne Alaska LNG 社による発表において、Alaska

LNG プロジェクトのフェーズ 1 に、EPCM(エンジニアリング・調達・建設管理) 業務を提供するため仮指名された、と述べた。条件付の受注で、確定契約締結が条件となる。これに先立って Worley は 2025 年末、フェーズ 1 の FEED(基本設計) 作業を完了した。

2026 年 1 月 18 日、カナダとカタールの指導者は、カタールがカナダの国家建設プロジェクトに大規模な戦略的投資を行うことを約束すると発表した。

カナダ Woodfibre LNG は、2026 年 1 月 19 日、同 LNG 設備向けの大型モジュール 2 件が 17 日土曜日に到着したことを発表した。13 件目のプリトリートメントモジュール、14 件目のプロセスユーティリティモジュールで、当該発表によれば建設進展度が 60% 完成に近付く。今後数ヶ月間にさらに 5 件が到着予定としている。

カナダ BC Hydro は、2026 年 1 月 13 日、追加送電線 Woodfibre LNG 接続プロジェクトステージ 2 を建設することを発表した。同発表によると、この新送電線により、同 LNG 設備はクリーン再生可能電力で全て動力とすることとなる。Woodfibre LNG 接続プロジェクトは 2 段階で実施される。ステージ 1 は既に進行中で、Woodfibre LNG を既存の送電線に接続し、初期の電力需要に対応する。ステージ 2 は、Cheekye 変電設備から Brackendale 経由 Woodfibre LNG 設備まで既存 BC Hydro 敷設権用地に新規送電線を追加する。ステージ 2 は早期の検討・協議段階にあり、建設は 2028 年春に開始見込み。

カナダのブリティッシュコロンビア州政府は、2026 年 1 月 20 日、BC Hydro が Kisi Lisims LNG との間で MOU(覚書) を締結したことを発表した。North Coast 送電線の顧客確保へのステップである。BC Hydro は最大 600 MW のクリーン電力を Nisga'a 条約住民地域の計画中 FLNG 浮体 LNG 設備に供給することとなる。Kisi Lisims LNG、North Coast 送電線とともに、連邦政府より国家的に重要とみなされている。建設は 2026 年夏に開始見込みで、2030 年までに段階的な完成を目指している。

韓国のハンファグループは、2026 年 1 月 19 日、カナダ Fermeuse Energy との間で、Newfoundland and Labrador LNG プロジェクト推進に向け MoU(覚書) を締結したことを発表した。ハンファはコンセプチュアルスタディ、プレ FEED エンジニアリング面等で貢献する。

【中東】

アブダビ ADNOC Gas 社は、2026 年 1 月 19 日、インドの Hindustan Petroleum 社(HPCL) との 10 年間総額 25-30 億米ドルの SPA(売買契約) 締結を締結したことを発表した。本契約は、LNG 年間 50 万トンの輸出を対象とする既に締結されていた HoA(基本合意) を転換するもの。本契約は ADNOC Gas の Das Island 液化設備より供給されることとなる。同設備は稼働開始以来、世界に 3,500 件以上の LNG カーゴを出荷した。

アブダビ ADNOC は、2026 年 1 月 7 日、アブダビ沖 Ghasha 鉱区内 SARB 海底ガス開発の FID(最終投資決定) を発表した。2020 年代末までに日量 2 億立方フィート(年間 150 万トン) 供給を見込む。沖合 120 km に位置し、新規沖合プラットフォーム、生産井 4 本、

Das Island に接続する。

千代田化工建設株式会社は、2026 年 1 月 21 日、カタール QatarEnergy より North Field West LNG 陸上設備の FEED (基本設計) 契約を受注したことを発表した。

Chevron 社は、2026 年 1 月 16 日、Chevron Mediterranean 社 (CML) およびイスラエル沖 Leviathan 天然ガス資源の参加パートナーが、生産プラットフォーム生産容量拡張の FID (最終投資決定) に至ったことを発表した。Leviathan 拡張プロジェクトは、2020 年代末までに稼働開始が見込まれる。同プロジェクトには、追加洋上生産井 3 本掘削、海底インフラストラクチャの追加、生産プラットフォーム上の処理設備増強により、イスラエル・地域内へのガス供給量を年間 21 BCM に増加する見通しである。Leviathan 生産プラットフォームは、イスラエル Dor 沖 10 km に位置する。Leviathan には CML がオペレーター (39.66%)、NewMed Energy (45.34%)、Ratio Energies (15%) が参加している。

【アフリカ】

Höegh Evi 社は、2026 年 1 月 6 日、Höegh Gandria が LNG 輸送船舶から FSRU (浮体貯蔵・気化設備) への改造のためシンガポールの Seatrium のヤードに到着したことを発表した。2026 年第 4 四半期に完了後、FSRU Höegh Gandria は、2026 年 2 月までの暫定傭船で 2024 年 7 月にエジプトに配置された Höegh Galleon FSRU と入れ替わる。Höegh Galleon は 2027 年豪州 Port Kembla の LNG 基地への配置前、追加最大 1 年間エジプトに留まる見込み。

Eni は、2026 年 1 月 22 日、アゼルバイジャン国有企業 SOCAR との間で、コートジボワールの Eni (47.25%) がオペレーションを担当し Vitol (30%)、Petroci (22.75%) が参加する Baleine プロジェクトの 10%持分の譲渡に関する確定契約を締結したことを発表した。現在フェーズ 1・2 から石油日量 62,000 バレル、ガス日量 7500 万立方フィートを生産している。フェーズ 3 開始により生産は石油 150,000 バレル、ガス 2.00 億立方フィートが見込まれている。

ドバイ Drydocks World は、2026 年 1 月 8 日、ガボンにおける浮体 LNG 生産開発、ガスフレアリング削減支援・同国生産容量の日量 1.05 億立方フィート拡大のため 2027 年 7 月出港予定で LNG 輸送船舶 1 隻を FSU (浮体貯蔵設備) Cap Lopez に改造する契約を Dixstone Lower Gulf FZCO と締結したことを発表した。

TotalEnergies は、2026 年 1 月 29 日、モザンビーク Mozambique LNG 活動の全面再開を発表した。今回陸上・海上でのプロジェクト活動の再開は、2021 年に宣言されたフォースマジュール (不可抗力) を解除しプロジェクト活動を再開する Mozambique LNG コンソーシアムによる 2025 年 11 月 7 日の決定を受けてのものである。最初の LNG は 2029 年に見込まれている。プロジェクトの進捗は 40% で、主要機器のエンジニアリング・調達はフォースマジュール期間にほぼ全て実施された。Mozambique LNG は TotalEnergies EP Mozambique Area 1 (26.5%、オペレーター)、Mitsui E&P Mozambique Area 1 (20%)、ENH

Rovuma Área Um (15%)、ONGC Videsh Rovuma (10%)、Beas Rovuma Energy Mozambique (10%)、BPRL Ventures Mozambique (10%)、PTTEP Mozambique Area 1 (8.5%) で構成される企業連合である。

Eni は、2026 年 1 月 16 日、Coral North FLNG 船殻の進水を発表した。Coral North はモザンビーク北部 Cabo Delgado 沖 Rovuma 盆地水域に配備される 2 件目の FLNG (浮体 LNG 生産) 設備となる。プロジェクトの完成目標は 2028 年までの予定通りとなっている。液化容量年間 360 万トンで Coral North によりモザンビークの LNG 生産量は年間 700 万トンとなる。今回の発表によると、Rovuma 盆地でガスを生産している最初のプロジェクト Coral South は、135 以上の LNG カーゴを市場にもたらしている。

African Development Bank は、2026 年 1 月 22 日、理事会がモザンビーク沖 Coral North FLNG (浮体液化天然ガス) プロジェクト開発に向け 1.50 億米ドルのシニアローン (優先融資) を同 14 日に承認したことを発表した。同プロジェクトは Eni 社が主導し、70 億米ドル以上を要すると見込まれている。African Development Bank に加え、他の開発金融機関、輸出信用機関、コマーシャル融資機関の資金調達を受けることとなる。同プロジェクトは、LNG 生産の一部を、クリーンクッキングへのアクセス、国内工業開発、南部アフリカ開発コミュニティ (SADC) 地域へのガス輸出、ガストゥーパワープロジェクト開発のため取り置くことをコミットしている、としている。

ExxonMobil は、2026 年 1 月 30 日、自社のモザンビークでの LNG プロジェクトに関して、2026 年下半期に FID (最終投資決定) を見込んでいる、と述べた。プロジェクトチームは遅延の期間を、当初有したよりもコスト優位性高い設計とするために使った、とした。

【欧州・周辺地域】

Höegh Evi は、2026 年 1 月 28 日、オランダ Zeeland Energy 基地のオープンシーズン開始を発表した。FSRU 方式の基地で、送出容量年間 7.5 bcm (75 億 m³)、180,000 m³ 以上の LNG 貯蔵を 2029 年末から提供する。EOI (関心表明) フェーズは 2026 年 3 月 6 日まで受け付け、コマーシャル的な手続きは 2026 年中に完了が見込まれている。

ドイツ Deutsche ReGas は、2026 年 1 月 19 日、ドイツ政府が国有 Deutsche Energy Terminal 社にその FSRU 基地群向けに認めた最大 49 億ユーロの国庫補助に関する欧州委員会判断に異議を唱え提訴したことを明らかにした。2026 年 1 月 16 日に欧州連合法廷に提訴した。Deutsche ReGas は、Energie-Terminal "Deutsche Ostsee" における LNG 輸入インフラストラクチャの建設・操業は、以前の Lubmin の LNG 基地の建設・操業同様、民間資金によりなされ、国庫補助は受けていない、としている。Deutsche ReGas はさらに、2025 年第 4 四半期、全ドイツ LNG 基地中最大のガス数量は Energie-Terminal "Deutsche Ostsee" を通じて引き渡され、ドイツの家庭用、商業用顧客の 15% にガスを供給した、としている。

ノルウェー Aibel は、2026 年 1 月 8 日、Equinor の陸上諸設備、複数の海上施設につ

いてのメンテナンス・改造 (M&M) に関する 5 年間の枠組契約を受注したことを発表した。追加 3 年間・2 年間の延長オプション付となっている。

ノルウェー Stolt-Nielsen 社は、2026 年 1 月 26 日、子会社 Stolt-Nielsen Gas 社を通じて、Avenir LNG 社における自社持分の最大 50% 売却可能性に関して戦略的買主と話し合っていることを発表した。Avenir LNG 社は小規模 LNG バンカリング船舶 5 隻を所有・運航しており、2 隻を建造中である。売却契約は最終的な文書化と手続き面の承認が必要であり、2026 年第 1 四半期中に見込まれている。公式契約に達すれば、Stolt-Nielsen は Avenir LNG を共同事業として所有・経営する意図である。

スウェーデン Sirius Shipping は、2026 年 1 月 7 日、FLEXI LNG 7800 m³ - HYBRID プロジェクトの起工式典が RMK Marine シップヤードで挙行されたことを発表した。この発表によると、同プロジェクトは 2027 年夏に客先向けサービス開始予定とされる。この造船は Sirius Shipping ・ノルディックのエネルギー企業 Gasum 間の合弁事業が委託した。Celsius は、船上にガス燃焼装置を持つことで他の LNG バンカー船舶と異なることとなる。これは LNG 輸送船舶にも LNG を燃料とする船舶にも役立つサービスとなる。

スペイン Naturgy、Enagás 子会社 Scale Green Energy は、2026 年 1 月 15 日、船舶向けに LNG、バイオ LNG を供給するため Mistral LNG 船舶を建造・傭船することによりイベリア半島の海上輸送の脱炭素化推進する合意に達したことを明らかにした。Mistral LNG はカーゴ容量 18,900 m³ を持つこととなる。Scale Green Energy が Naturgy 向けに 2028 年に長期契約で傭船されることとなる同船舶を運航管理することとなる。

Capital Clean Energy Carriers 社 (CCEC) は、2026 年 1 月 6 日、世界初の 22,000 m³ 低圧液化 CO₂ (LCO₂) 輸送船舶 Active の引き渡しを Hyundai Mipo Dockyard (HMD、現代尾浦造船 (ヒュンダイミポぞうせん)、現代ミ포조선) より受けたことを発表した。Active は CCEC による HMD での投資プログラム 4 隻中の 1 隻目となる。これらは複数カーゴ輸送対応で、LCO₂、LPG、アンモニア、特定種の石化製品を輸送できる。

トルコのエネルギー・天然資源省は、2026 年 1 月 3 日、アゼルバイジャンと、2029 年から 15 年間、年間 2.25 bcm をカスピ海 Absheron ガス田からの新規天然ガス契約を締結したことを発表した。既存 Baku-Tbilisi-Erzurum パイプラインを通じて引き渡される見通し。

欧州連合理事会は、2026 年 1 月 26 日、パイプラインガス・LNG ともにロシア産輸入をフェーズアウトする規制を公式に採択したことを発表した。完全禁止は LNG 輸入について 2027 年初から発効、パイプラインガス輸入について 2027 年秋から発効する。本規制は EU 官報に掲載される段階となる。掲載の翌日発効となる。

速報値によると、2025 年ロシア Gazprom は 38.8 bcm のガスを Power of Siberia ガスパイプラインを通じて供給した (前年比 24.8% 増)。初めて中国向けパイプラインガス輸出が、欧州向け (トルコ含む) を超えた。Gazprom はカザフスタン、ウズベキスタン、キルギスタン向けロシア産ガス供給を 22.2%、ジョージア向けを 40.4% 増加した。

【南米】

ドミニカ共和国 Energía 2000 社は、2026 年 1 月 8 日、FSRU Energos Freeze がマンサニージョ湾 Pepillo Salcedo で最初のコミッショニングカーゴを受け入れた、と述べた。Energos Freeze は New Fortress Energy から孫傭船されている。

パナマ Sinolam LNG Terminal 社、Sinolam Smarter Energy LNG Power 社は、2026 年 1 月 7 日、AES 社とそのパートナー InterEnergy Holdings (UK) 社等を相手取り、Sinolam をパナマの LNG 発電市場から違法に除外したとして、米バージニア州アーリントン郡の地方裁判所に民事訴訟を提起したことを発表した。

TMC Compressors は、2026 年 1 月 5 日、CIMC Raffles (烟台中集来福士海洋科技集团有限公司 (中集来福士集团)) から、後者により Golar LNG 社向けに建造される MK2 FLNG 設備への海洋コンプレッサーエアシステムの供給委託契約を受けたことを発表した。MK2 FLNG 船舶は 2027 年の引き渡し予定である。

アルゼンチン YPF は、2026 年 1 月 23 日、リオネグロ州政府との間で、Argentina LNG プロジェクト開発促進のため規制上・および公式協力の枠組を確立する協定を締結したことを発表した。本協定で、財政制度上・規制上の安定性を 30 年間確保するもので、大型投資インセンティブ制度 (RIGI) を補完し、同 LNG プロジェクトバリューチェーンに参加する投資家への予測可能性を提供する。同州での同プロジェクト遂行上の税制面以外の諸条件も明確化する。財政上の枠組だけでなく、地元技術水準向上のためのトレーニングプログラムも織り込んでいる。

Caribe LNG は、2026 年 1 月 26 日、Six One Commodities (61C) による戦略的マイナリティ出資、61C がコロンビアでの Caribe LNG プロジェクト初期段階に LNG を供給する諸契約の取引が完了したことを発表した。61C は同プロジェクト初期段階の供給者として、最大日量 51,000 百万 Btu(年間 36 万トン) を供給する。Caribe LNG はその後の数段階で総容量最大日量 180,000 百万 Btu まで拡張する設計となっている。Caribe LNG は、Course 2 Energy 社、Andalusian Energy 社が推進者となっている。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp